

平成 25 年 9 月 9 日（月） 9:00～11:00

高知共済会館 3 階「桜」

- (1) 4 年後・10 年後の目標達成に向けた確認について
- (2) 平成 25 年度上半期の進捗状況等について

○A 委員

着実に観光現場が進化をしている実感がある。

○B 委員

3 点お聞きしたい。

- ①地域アクションプランのフォローアップ会議を 7 ブロックで開催しているが、県全体の観光の動きと地域観光の取組とがどう歩調を合わせているのか、見えづらい。
- ②分野別の取組みは着々と進んでいると実感している。ただ、取組みの中に教育旅行についての記述がない。今後に向けて対応していく余地が大いにあるように思う。
- ③大型クルーズ船の誘致は必要であるが、誘致をした後の県内への波及効果が目に見えない部分もある。今後に向けての課題ではないか？

○事務局

- ①各地域アクションプランのフォローアップ会議には観光振興部も必ず出席して、県として地域にお願いしたい点を伝達している。地域における観光への思いの濃淡はあるかもしれないが、取組を説明しつつ、首長をはじめとするメンバーとの意見交換を行っている。また、高知市とは別途連携のための会議を設置しているところ。
- ②教育旅行については、項目立てはしていないが、地域に観光アドバイザーに入っていたき、体験プログラムの構築、民泊などの受け皿づくりの取組を進めている。今年度は東部地域で検討を進めているところ。また、各地域とコンベンション協会とが連携し、教育旅行の誘致も進めている。
- ③大型クルーズ船については、今後、14 万トンクラスまで寄港が可能となり、積極的に誘致していきたい。波及効果については、今後、これまでの実績を踏まえた検証が必要。昼食場所をどうするかなど、商店街等で受入の際の課題やノウハウは蓄積されつつあるのでそれを活かしていきたい。

○A 委員

教育旅行は明日の高知ファン獲得のためにも重要。ぜひ積極的に取り組んで欲しい。
地域の大事なキーマンである首長とのネットワークを大事にして欲しい。

○C 委員

関西の大学のゼミ合宿を土佐町で行っている。最近は大学が地域の役場や農家等と連携して実地研修を行っているところも多いと聞く。体験プログラムの中に 1 次産業の就業体験を盛り込むと良いのでは。ただ、悩みは宿泊先をどうするか。高知市内に泊まる場合、

移動の問題もある。

また、よさこい祭りの際に、ある中学校が校庭を開放して出店とトイレを用意した。踊り子にとってもありがたいし、出店したPTAにとっても収入になり、双方にとってありがたい取組だと思う。自転車などのスポーツイベントでも同様の取組をすれば地元にお金が落ちるのでは。

○事務局

コグウェイ四国、無限大チャレンジライドなど、県が協力している自転車イベントでは、地域にお金が落ちるよう連携しながら取り組んできた。今後も回を重ねながら、検証してより良いイベントにしていきたい。

(3) 次期誘客戦略について

(4) 第2期計画VER. 3のバージョンアップのポイントについて

○C委員

総選挙は面白いと思う。個店まで出すのか、食材や地域の祭などを出していくのか？
また、ノミネート方式にしないと個人の投票がバラけてしまうと思うが、どうか？

○事務局

詳細な内容は今後詰めていくこととし、9月議会で議論をいただく予定。観光客が求めているのは、地元の人がおススメするお店の情報だが、行政が個店を紹介する基準を決めるのは難しく、なかなか情報提供できなかった。県民がおススメするという基準であれば、個店を紹介していける。ノミネート方式にすると、その店を知らなければ投票しにくいので、幅広くすべての店舗を対象にしたいと考えている。

また、選ばれなかった店に対する配慮は不可欠。なぜ、その店が選ばれたかという理由を記載してもらい公表するなど、発表の仕方を工夫したい。

○D委員

県外に行くと、地元のおいしいものを食べたいというニーズは高いと思う。地元の人がおススメするお店の情報は知りたいはず。高知は決して沖縄や香川に食では負けていない。そこでしかない食材、そこでしか食べられないものをもっとPRしていくべき。

○事務局

単に店舗を紹介するだけでなく、個別メニューでここでしか食べられないものや高知でしか味わえないものをおススメする理由から整理して公表していきたい。

○E委員

食材はフラッグシップになるようなものがほしい。食材と個店をクロスさせながら見せていく必要がある。たたき、キンメ、清水サバなど、知られているようで知られていないものがまだまだある。ある程度高級感があって、そこに行かなければ食べられないものを組み合わせて打ち出して行くと良い。

また、じゃらんの結果(12位)は観光客の要求のハードルがあがったということ。そこ

にしかない高級感のある食材があれば「これを食べに行く」という旅行の動機につながると思う。食材のブランドイメージを伝えることが大事。

○事務局

おっしゃるとおり。高知でしか食べられないものを積極的に情報発信していきたい。水産分野などブランド化を進める取組とも一緒になって発信していく。

○F委員

総選挙について新聞で書かせてもらったが、知り合いから、今から投票するお店を真剣に考えているとの声もあった。一般の人に繰り返し伝えていくことが大事。

基礎的なおもてなしの力、県民力が育ってきて初めて常にファンとして来ていただけるまちづくりができるのではないかな。

食に関しては全国どこもやっている。沖縄の食の評価が高いのは、単に美味しいだけでなくエンターテインメント性、文化まで含めてのことだと思うので、あわせてここも磨いていく必要がある。

ひとつひとつ積み上げていくボトムアップ型の観光施策も必要だが、それだけで10年後の目標を達成するのは至難の業。飛躍へのポイントを実現するためには、ボトムアップ型の取組に加えて、ダイナミックな仕掛けを考える必要がある。例えば産業として民間資本との連携をどうするのか、ジオパークへ外国から誘客する大胆な方策はないか、2020年の東京オリンピック開催に向けて国際的な注目を高知まで引っ張ってこれるのか、などの検討を始めるべき。

○事務局

新聞記事は、私たちの思いを書いていただきありがたい。今後、多くの世帯に投票いただけるよう盛り上げていきたい。

ダイナミックな仕掛けは、皆さんにご意見をいただきながらぜひ具体化していきたい。

○G委員

来年2月～4月、県立美術館でボストンのミレー展を予定。高知、京都、東京の3箇所でのみの開催で、高知が全国最初の会場。西日本あたりにどうやってPRしていくのか悩んでいるところ。

GW以降は3ヶ月くらいの閉館を挟んで、石元泰博氏の常設展示を行うとともに、遍路開創1200年の文化展を4県分散して実施予定。いずれも県外から呼べる内容と思っている。石元氏は日本より外国で人気の写真家であり、外国への発信も可能と考えている。

閉館する3か月くらいは手がすく職員をおもてなし研修への参加や他の館での研修をさせるなど、接遇のレベルアップを図りたい。

企業の高知支店長がおススメする店舗というのはいつ頃実施するのか？

○事務局

県民総選挙の結果と企業の高知支店長のおススメ店舗をあわせて、来年4月に出すパンフレットに掲載予定。総選挙の投票時期と同じ1月頃に各支店長へアンケートを配布したいと考えている。

○A委員

まだまだ知られていない土佐の郷土料理もある。地域の啓蒙、気づきも必要であり、全体を巻き込んでいって欲しい。

○事務局

バージョンアップのポイントで記載させていただいたが、食のプロモーションだけでなく、高知に来た観光客に「食」でどうおもてなしをしていくのか、地域の掘り起こしも含めて観光振興部全体で取り組んでいく。

○A委員

バージョンアップのポイントとして、大学の観光講座などで、体系立てて「高知の遊びの達人」などのネットワーク化を進めることを掲げてはどうか、と考えている。地域で現在進めている観光人材育成塾の延長として、また、県民全体のおもてなしのレベルアップとして根強く進めていくべき。

○H委員

現在、永国寺キャンパスの整備にあわせて、県立大学のカリキュラムの見直しが検討されているところだが、観光も候補の中のテーマにあがっているので、今後連携していきたい。

○事務局

部会長のご提案については、10年後の飛躍へのポイントの中で、「県民の総おもてなし活動の推進」としてその意図も含まれていると考えている。難しく大きな課題ではあるがチャレンジしていきたい。

観光を進めるうえで大変基礎的なところなので、単年度のバージョンアップというより、長期的な課題として、県立大学の見直しの状況も見据えながら地道にすすめていくべき課題と考えている。

○D委員

高松空港への外国人観光客を上手に高知に取りこむことが必要。大型クルーズ船の場合でもそうだが、市内で買い物がしやすい環境を整えることが必要。

○事務局

お金を落としやすい仕組みは重要と考えている。消費税分の減免は大丸やイオンは今でも可能だが、それをもっと知らしめると同時に免税店を増やしていくことが必要である。

○A委員

例えば「よさこい」など、高知ならではのこだわった消費の促進をしかけていくのも良いのでは。

○E委員

広島では電気店と旅行会社とが個別に契約している。外国人観光客をどう周遊させて買い物させるのかは店舗と旅行会社との契約次第となるので、現地の旅行会社にダイレクトにあたっても良いと思う。

○事務局

集客力のある買い物場所を作ることに行政としてどこまで関わっていけるのか、という問題もある。

外貨で支払った後で両替したり、クレジットカードを使えたりするなど、お金の落とし方については、個別の店舗でも努力していただきたい点もあると思う。

○ I 委員

陸上、サッカーなど誘致に関する情報は、各競技団体へ早めに共有をお願いしたい。

県外からのスポーツ誘致と県内スポーツの強化を目指すため、学校や地域単位の交流をイベントや大会に育てていきたい。ぜひ、既存の施設整備とともに宿泊とのパック旅行を使った送客の推進という点でバックアップをいただきたい。

○事務局

スポーツ合宿は伸びしろがある分野。合宿は練習相手をどうするかが重要だが、旅行会社では練習相手の紹介までは手を出せない。合宿誘致の一環として練習相手の確保に取り組んで行くことも必要と考えている。

○ I 委員

オリンピックの練習会場として何が必要か、などのノウハウの蓄積も必要。

○事務局

オリンピックはこれからだが、例えばラグビーワールドカップ 2019 が日本で開催される。そのベースキャンプ地の誘致に取り組んでいこうと、ラグビー協会と連携して情報収集を行っている。そういった取組がオリンピックの練習会場の誘致にもつながっていくのでは、と考えている。